

9 青少年補導状況

(単位:人)

区分	総数	怠学	飲酒	喫煙	深夜徘徊	暴走行為	不良交友	その他
小学生	-	-	-	-	-	-	-	-
中学生	41(7)	-	-	5(-)	27(5)	3(-)	4(-)	2(2)
高校生	156(57)	-	3(2)	32(8)	61(17)	56(29)	4(1)	-
大学生	6(1)	-	1(-)	2(-)	2(1)	1(-)	-	-
その他学生	-	-	-	-	-	-	-	-
有職者	21(5)	-	2(-)	12(4)	3(-)	4(1)	-	-
無職者	27(8)	-	1(-)	6(1)	12(3)	5(2)	-	3(2)

注1)平成19年次常総警察署における常総市管内
注2) ()内は女子で、内数

資料:常総警察署

出火原因は放火が最も多い

主な出火原因を見ると、放火、たばこ、こんろ、放火の疑いが上位1~4位となっており、若干の差をおいてたき火がこれに続く。2006年では「放火」による火災が6,649件、全件数の12.5%を占めている。「放火の疑い」を含めると放火は全火災の21.2%にも上がるが、この「放火の疑い」を含めた放火の発生状況についての詳細報告を見ると、放火対象としては住宅火災や共同住宅火災に次いで車両火災が多いこと、出荷時間帯別には20時台から3時台までが多いこと、また、月別には1~4月が多く6~7月の梅雨の時期には相対的に少なくなることなどが分かる。

救急搬送人員の半数以上は軽症傷病者

救急自動車の出場件数は著しい増加を続け、年間出場件数は2005年には約528万件に上った。ところが、「消防白書」には、実際に救急搬送された人のうち、入院加療を必要としない軽症傷病者及びその他の割合は52.3%に及ぶという報告が記載されている。このような出場要請は、119番へのいたずら通報と合わせ、救急車の適正な利用を妨げる重大な要因となっている。

(財)日本統計協会「統計でみる日本2008」より